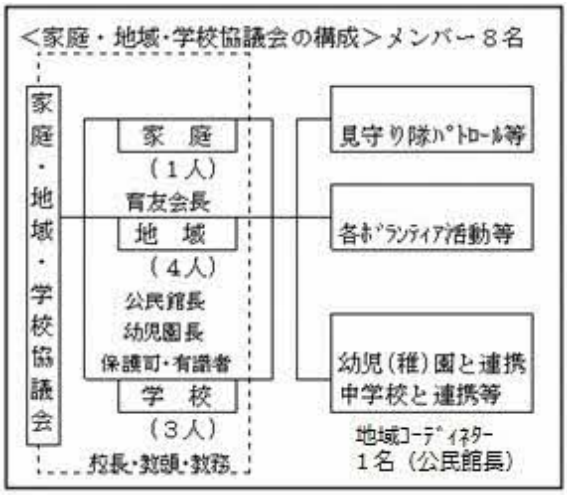
（様式３）

令和元年度　福井型コミュニティ・スクール　実施報告書

松岡小学校

１「家庭・地域・学校協議会」の運営について

（１）「家庭・地域・学校協議会」の構成



（２）協議会の内容

＜１回目＞５月２４日(金)
○委員長選出○役割について
○スクールプラン・年間計画について
○Ｒ元年度「地域と進める体験推進事業」の持ち方
＜２回目＞３月３日（火）
○学校評価について
○今年度の成果と課題について○Ｒ２年度「地域と進める体験推進事業」の持ち方
○次年度へ向けて○その他

（３）協議会における成果と課題

委員５名の方は、松岡地区をよく知っている方々ばかりで、地域のことや人材のことを紹介していただけた。保護者として本校におられた方もいて、本校の教育について理解を示していただいている。今年度の「地域と進める体験推進事業」にも関わっていただいたり、放課後の育友会による見守り隊に関わっていただいたりした。家庭・地域・学校を結ぶ協議会となっている。

２　地域と進める体験活動

（１）活動のねらい

私たちは、いつも地域の中で生活しているが、しかし、地域が疎遠となっている現状がある。これからの子どもたちがたくましく、豊かに生きていく力を育てるためには、児童の育ちと学びを支える環境、人間的なつながりや豊かな体験、家庭・地域・学校の調和がとれていることが重要である。まず児童が地域を知り、そして地域の課題等を改善する体験学習を実施することで、郷土に誇りや愛着を持ち、将来地域を支える人材へと繋がっていくと考え、これまでの地域学習を再確認して、３年生と６年生の活動に重点を置き、「ふるさと永平寺町を知ろう、知ってもらおう」という活動テーマとしての取り組みを再構築した。

（２）活動の実際

①３年総合的な学習「永平寺町のおたからを発見しよう」

今年度３年生は、松岡地区だけでなく永平寺町全体について調べる活動を行った。まず学校で下調べを行い、班分けして６月には、松岡地区（役場・古墳・青山ハープ・なかよし幼児園・黒龍酒造・田邊酒造・えい坊館・松岡公民館・内水面総合センター）の現地調査活動を行った。１１月には、永平寺地区・上志比地区・御陵地区において、様々な見学と体験活動（自動走行車両体験・大本山永平寺・わくわくリバー館・弁財天白竜王大権現・五領たまねぎ植え付け体験）を行った。自分たちが調べたことや見学体験したことを模造紙にまとめ、来年活動を行う２年生に対する発表活動につなげた。

（様式３）

②６年総合的な学習「ふるさと永平寺町のＰＲをしよう」

今年度６年生は、修学旅行において京都で行う「永平寺町ＰＲ活動」に向けて、河合町長さんとの「町長さんと語る会」を実施した。古い伝統のあるものを大切にしながら、次の世代につなげるための新しい試みをしている永平寺町の姿を知ることができ、自動走行車両体験もできた。そして、１０月京都三条地下街での永平寺町ＰＲ活動を実施。児童による館内アナウンスやティッシュ配りで、発表前からたくさんの方が集まった。わずかな時間であったが、ふるさと永平寺町の良いところを、得意の寸劇で、元気よくアピールすることができた。６年生のパフォーマンスに足をとめて見てくださり、最初はかなり緊張した様子であったが、やり終えた後はみんな晴々とした表情に、思い出に残る活動となった。

（３）地域コーディネーターの活動概要

今年度も家庭･地域･学校協議会で地域コーディネーターの依頼を行い、堀江委員長にお願いした。永平寺町松岡公民館長としての人脈を生かして、低学年まち探検等の助言をいただいたり、今年度は、３年総合的な学習「永平寺町のおたからを発見しよう」の永平寺町紹介についての多くのアドバイスをいただいた。

（４）特に工夫した事項

昨年度は、学校カラーである緑色を基調とした「活動用Ｔシャツ」を作ったが、今年度は、３年生が赤色、６年生が黄色で製作し、背中プリントロゴをえい坊くんで統一し、胸プリントロゴを各学年テーマとし、日頃の調査活動や発表活動でも着用して行った。そのことで、児童の活動意識を高めることができた。また、町民に対して活動のアピールになったと思われる。

（５）成果と課題

これまでの学年で取り組んできた「校外学習」をただ教科や生活科・総合的な学習として行うだけでなく、１年から６年までの縦断的な学習として捉えて『ふるさと永平寺町を知ろう、知ってもらおう！！』というテーマで取り組んだことは、地域をより良く知ることや愛着を持つことに繋がったと思われる。低学年で行った地域や地域の方々を知る活動や高学年が行なっている総合的な学習内容をつなげ、そして６年生の修学旅行の「ふるさとＰＲ活動」として、ふるさと永平寺町のよさを県外に発信することにつなげていく。発信には、準備が大変ではあるが今後も継続していきたい。今年度において、これらの活動が児童の達成感に繋がったことが何よりも大きな成果だと思われる。